学校番号	２１２

令和３年度　芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高校生の美術２　（日本文教出版）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・美術を学ぶとは、何が美であるのかを探る行為を通して、物事の本質は何なのかを考えることである。
・作品の良さについては、実際に作品を制作しつつ国内外の様々な作家や作品から幅広く知識や技術を学び、自身の取り組みの意味や喜びを見つけて得た成長の成果とする。表現したいものや表現方法にこだわりを持って制作し、試行錯誤を重ねることで到達するものであり、表現の深さや強さとして表れ、作品の密度や完成度に結び付く。
・鑑賞においては、優れた作品に接して作者の制作意図や時代背景を学ぶことで、作品を見る目を養い、技術面だけでなくより深く表現活動や作品制作の意味を理解するものとする。また、自己の作品制作に求めるものを考える手立てでもある。

２　学習の到達目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	・課題に関心を持ち、主体的に積極的に取り組んでいる。 ・こだわりを持って取り組み、より良い作品になるよう試行錯誤しつつ制作している。 ・準備、後片付けに至るまで、課題を念頭におきつつおこなえている	・課題に対し、自分なりの解釈や表現を試みている。 ・常日頃からの様々な芸術文化、社会への関心の深さが発揮されている。	・作業手順を理解し、無駄なく動けている。 ・材料、道具の特性や良さを生かして表現している。 ・それぞれの作業を丁寧に行っている。	・学んだ分野や特性、その課題の魅力を理解して、自他の作品や国内外の作家の作品を鑑賞している。 ・学んだ材料、道具についての知識を持ちつつ、独自の観点で作品の良さを見つけている。
評価方法	・作品 ・ワークプリント	・作品 ・ワークプリント	・作品	・ワークプリント

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	絵画	「鉛筆デッサン(靴)」 ・自分の靴(片方)を持ってくる ・靴の配置、画板(画用紙)の位置、姿勢、視点をよく吟味して構図を確認する。 ・全体の構図や描く大きさを確認しつつ描き始める。 ・明暗の調子を鉛筆のタッチを重ねて表現していく。 ・質感や細部まで観察して徹底的に描き込み完成させる。	○	◎	○		a:描くモチーフに関心をもち、積極的に取り組んでいる。 b: 質感や細部の表現に至るまで、こだわりをもって観察して描いている。 c:靴の量感や存在感を鉛筆の濃淡を使い分けて明暗で表現できている。	取り組みの様子 作品
	立体	「私の靴」 ・ダンボールを素材にして、実物大の靴をつくる。 ・底の部分から作り始める 厚みの違い、反り、などをよく観察し、ダンボールを自在に加工して作る。 ・側面、上面と制作を進める ダンボールをたたいて柔らかくする、薄くはぐ等の加工をする。 ・紐、金具、ゴム底、などの表現方法(すべてダンボール)を工夫する。 ・彩色のための下塗りをする ・彩色をする 何度も重ねる、剥がす、汚す…などの描き込みで質感や固有の使用感まで表現する。 ・紐をつけて展示し、自分の作品と他の作品を比較して自分なりの感想をもつ。	○	◎	○	○	a:制作中の靴を毎回、必ず持参する。自分の靴をよく観察し、制作工程を自分で考えて取り組めている。 b:徹底的な観察を基にして制作し、固有の使用感や汚れ、存在感などを形づくりから着色に至るまで、こだわって表現できている。 c: 型取りから形の切り出し、揉み解し、接着などダンボールの加工が適切で、それぞれの箇所に合わせた工夫ができている。 d:自分の作品と他の人の作品に興味を持ってよく観察し、それぞれの良さを発見できている。	取り組みの様子 作品

2学期	鑑賞	「日本の美術」 ・美術Ⅰで学習した美術史を振り返り、日本の美術について掘り下げて時代別に考える。 ・各時代の中で自分が気になった作品について学んだこと、考えたことを書く。 ・調べたことをまとめて発表する。 ・自分の発表と他の人の発表を比較し感想を述べる。	◎			◎	a: 時代ごとの作品の特徴や、代表的な作品について学び、自分の考えをレポートにまとめる。 d: 時代ごとの作品や作家の取り組みを知り、それぞれの表現の魅力を理解して、作品を鑑賞している。独自の観点で作品の良さを見つけている。他人の発表の良さを理解し、自分の表現の良さも発見している。	鑑賞態度 発表内容 感想
	絵画・立体	「風景レリーフ」 ・自分にとっての大切な風景を探す。 ・スケッチや写真をもとに作品のアイデアスケッチを描き、内容の詳細や説明についてレポートにまとめる。 ・アイデアスケッチをもとに土台に粘土をつけていく。下付けし、乾いたら更に付けていく。 ・粘土の厚みの差を利用して遠近感を表現していく。 ・彩色する 固有色を生かしつつ、自分が選択した風景にまつわる色の感覚も加えて表現する。 質感の再現や、細かい部分のリアリティーにもこだわって表現する。	◎	○	○	○	a:課題に関心を持ち、積極的に取り組んでいる。 b: 課題を自分のテーマに置き換えて表現する工夫をしている。 c:かぎられた厚みの中で、遠近感を粘土で表現する工夫をしている。 d:前回の鑑賞を踏まえて、自分にとっての大切な風景を選んで取り組んでいる。	取り組みの様子 レポート 作品

3学期	デザイン	「ユニットパターンポスター」 ・5cmの正方形を2分割するデザインを考える。 ・デザインしてできた形態をさまざまに置き換えて組み合わせパターンを作る。 ・できたパターンのイメージをもとに色の組み合わせと「MORIHIGA○○○○」の文字のスタイルを選択する。 ・イラストボードに枠を取り、下描きをする。 文字とパターンの配置を考えて構成する。 ・彩色する 2分割してできた形態は1つのセットとして配色し、全体に繰り返すように塗る。むらなく、形からはみ出さないように慎重かつ丁寧に塗る。 ・展示 校内に展示し、他の生徒の作品と自分の作品を比較して感想をレポートにまとめる。	○	◎	◎	○	a:課題に対し関心をもち積極的に取り組んでいる。 b：正方形の限られたスペースの中で、曲線や直線のもつイメージをよく理解し、効果的にまた個性的に２分割している。 できたパターンのイメージに合うスタイルの文字を選択できている。 c:イラストボードにパターンと文字の配置を考え、相互に活かしあう構成ができている。 d:他の生徒の作品と自分の作品を比較し、お互いの良さを見つけて言葉にすることができている。	取り組みの様子 作品 レポート

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　　b:発想や構想の能力
　　c:創造的な技能　　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。